

官庁施設の現況と保全実態調査の結果

1．官庁施設のストックの現況

官庁施設（国家機関の建築物）は、平成 16 年 4 月現在で総延べ面積が約 5,200 万㎡（施設数は約 2 万施設）と膨大なストックとなっています。建設後 30 年を超過している施設は、延べ面積で約 30 %、施設数で約 35 %を占めており、10 年後には、延べ面積で約 50 %、施設数で約 60 %になると想定されます。

2．保全実態調査の結果（平成16年度）

合同庁舎や一般事務庁舎の保全の実施状況に対する全体としての総評点は判定 B（概ね良好）ですが、一部の施設において改善をすべきものがあります。施設規模別の傾向としては、小規模施設の総評点が低い傾向にあり、特に 1,000 ㎡以下の施設では、判定 C（要努力）及び判定 D（要改善）の合計が 4 割を超え、小規模施設の改善が必要です。（図 1）

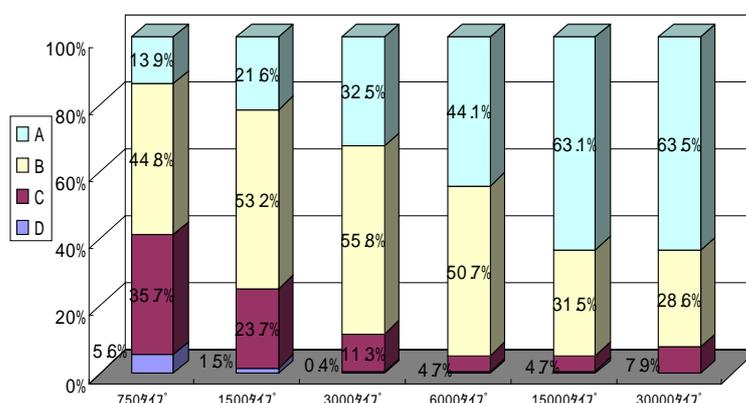


図 1 保全実態調査結果 規模別にみる総評点の施設数比率

注）今回の報告は、国の建築物全体を対象として実施された最初の調査（平成 16 年度調査）の結果です。

（参考）保全実態調査の調査内容と評価基準

- ・保全実態調査の調査項目は、施設概要のほか、 保全状況（保全実施体制、保全計画、記録整備） 定期点検 1（建築基準法関連、消防法関連、その他の法令関連） 定期点検 2（衛生、環境） 施設状況 1（防災・保守、建物整備、限度内使用、安全性・バリアフリー） 施設状況 2（室内環境、衛生・清掃） エネルギー消費量（電気、油、ガス等の年間・月別消費量）などです。
- ・評価項目ごとに定めた評価方法により、～ の各項目を 100 点満点で採点し、総評点はその平均値としています。また、各評点及び総評点に対して A～D の判定を行っています。（表 1）

表 1 評価の目安

評 点	80 以上	60 以上 80 未満	40 以上 60 未満	40 未満
判 定	A	B	C	D
所 見	良好	概ね良好	要努力	要改善